



# 個人投資家向け会社説明会

アステラス製薬株式会社(証券コード:4503)

コーポレートアドボカシー&リレーションズ部門  
部門長 池田 博光



この資料に記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述及びその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知及び未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i)医薬品市場における事業環境の変化及び関係法規制の改正、(ii)為替レートの変動、(iii)新製品発売の遅延、(iv)新製品及び既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v)競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi)第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、この資料に含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 本日のアジェンダ

3

I アステラスについて

II 持続的な成長を目指して 経営計画2021（2021-2025 中期経営計画）

III 株主還元方針

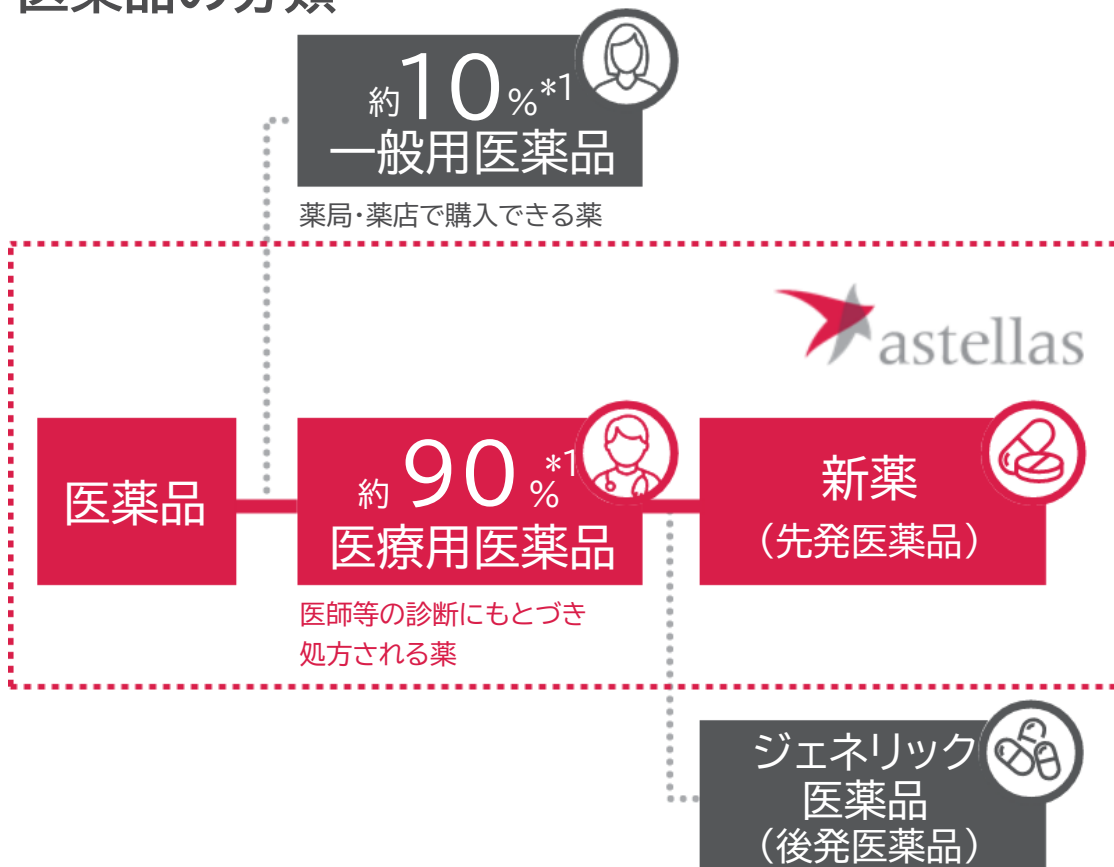
## VISION

変化する医療の  
最先端に立ち、  
科学の進歩を  
**患者さんの「価値」**  
に変える

持続的な成長のために  
最先端のサイエンスを追求し、  
患者さんに「価値」をもたらす医療  
ソリューションの創出を目指す

# 医薬品市場の現状

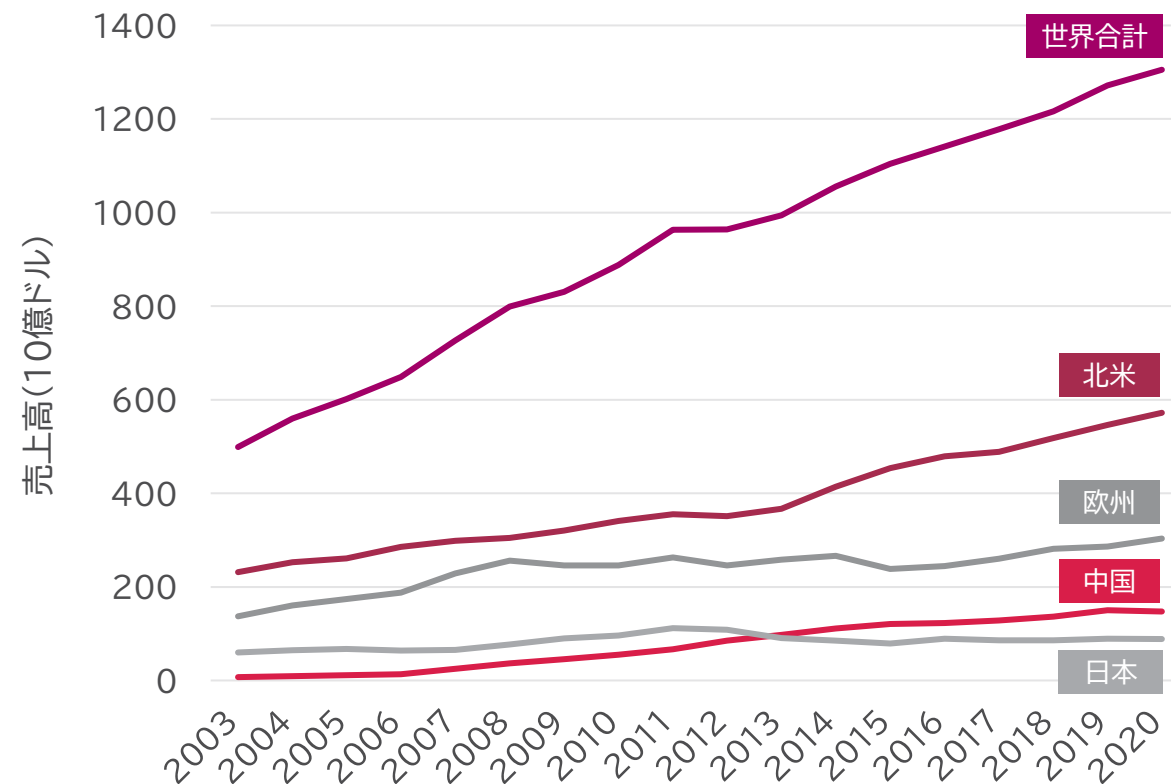
## 医薬品の分類



\*1 日本市場における割合

出典:「令和2年薬事工業生産動態統計年報 第1表 医薬品生産金額の推移」厚生労働省ホームページ  
(<https://www.mhlw.go.jp/topics/yakuji/2020/nenpo/>)をもとに当社作成

## グローバルでの医療用医薬品売上高\*2



\*2 出典:日本製薬工業協会 DATA BOOK 2022

出所:Copyright© 2022 IQVIA. IQVIA World Review,  
Data Period 2003から2020をもとに当社作成(無断転載禁止)

# 数字でみるアステラス



	2005年度
売上収益	8,794 億円
研究開発費	1,421 億円
コア営業利益*	1,930 億円



\* 2005年度は、日本基準の営業利益

# アステラスの歩み

2022年10月末現在



\*1 ミラベグロン(製品名:ベタニス/ミラベトリック/ベツミガ) \*2 アドバグラフ、グラセプター、アスタグラフXLを含む  
VMS: Vasomotor Symptoms 血管運動神経症状(顔のほてり・のぼせ等(ホットフラッシュ))

# 本日のアジェンダ

I アステラスについて

II 持続的な成長を目指して 経営計画2021（2021-2025 中期経営計画）

III 株主還元方針



## 経営計画2021の成果目標

2025年度

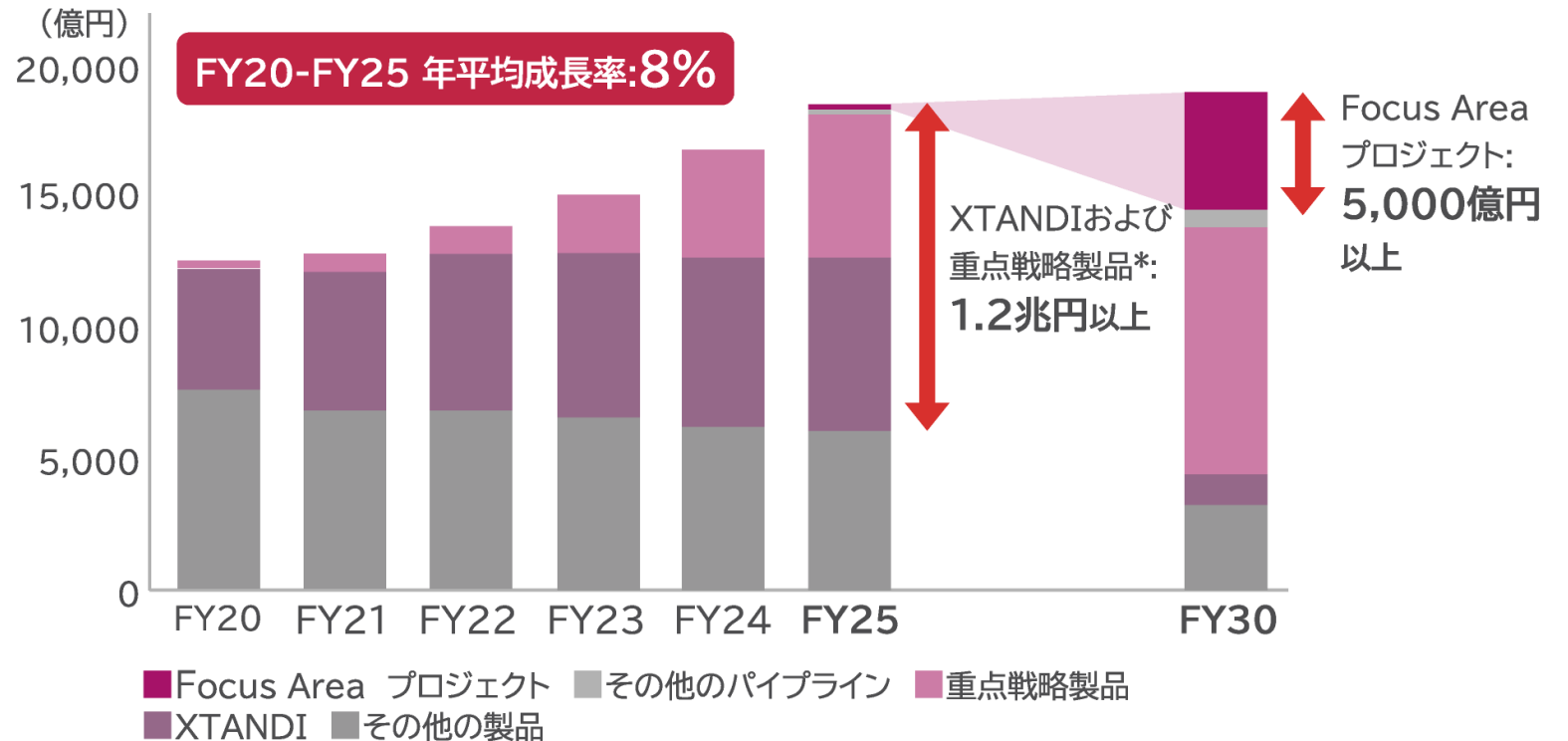
- 1 XTANDIおよび重点戦略製品  
2025年度に1.2兆円以上
- 2 Focus Areaプロジェクト  
2030年度に5,000億円以上
- 3 コア営業利益率  
2025年度に30%以上

株式時価総額





**7兆円**

と評価される企業を目指す

## 売上予想(確率調整後)



# XTANDIおよび重点戦略製品 売上


製品	2021年度売上実績 (億円)	ピーク時売上予想*1 (グローバル、億円)
前立腺がん治療剤 <b>XTANDI</b> / イクスタンジ 	5,343	6,000 - 7,000
対象疾患：閉経に伴うVMS (血管運動神経症状) <b>fezolinetant</b>	米国・欧州で承認申請済み 米国審査終了目標日 2023年2月22日	3,000 - 5,000
尿路上皮がん治療剤 <b>パドセブ</b> 	217	3,000 - 4,000 *2
急性骨髄性白血病治療剤 <b>ゾスパタ</b> 	341	1,000 - 2,000
対象疾患：胃がん等 <b>ゾルベツキシマブ</b>	P3試験中 2023年度承認申請予定	1,000 - 2,000
腎性貧血治療剤 <b>エベレンゾ</b> 	26	500 - 1,000 *3



\*1 ピボタル試験を実施済・実施中の適応症に限る(2022年10月末時点) \*2 米州については、パートナーのSeagen社が計上する売上を用いて算出

\*3 アステラスの権利範囲のみ：日本、欧州、独立国家共同体(CIS)、中東、南アフリカ等 VMS: Vasomotor Symptoms 血管運動神経症状(顔のほてり・のぼせ等(ホットフラッシュ))

# XTANDIおよび重点戦略製品 今後の開発スケジュール

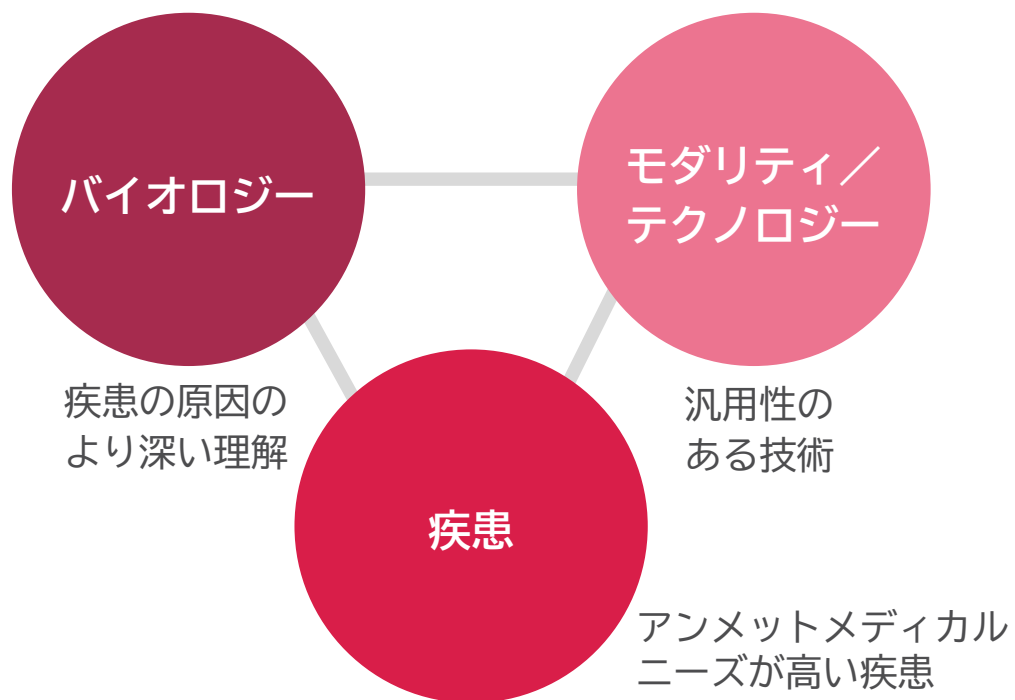
製品*	目標申請時期			
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降
前立腺がん治療剤 <b>XTANDI／イクスタンジ</b>		非転移性去勢感受性 前立腺がん	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p><b>fezolinetant</b></p> <p>VMSに対する充足されていない医療ニーズ ホルモン補充療法その他疾患に対するリスクが 指摘された後、20年間治療方法が空白 ファーストインクラスの非ホルモン治療薬（承認された場合）</p>  </div>	
対象疾患：閉経に伴うVMS <b>fezolinetant</b>	閉経に伴う中等度から重度の 血管運動神経症状	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">                         申請 済み                     </div> 米国審査終了目標日 2023年2月22日		
尿路上皮がん治療剤 <b>パドセブ</b>	転移性尿路上皮がん (治療歴なし)	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">                         申請 済み                     </div> 米国：迅速承認申請  EV-103試験 コホートデータに基づく	転移性尿路上皮がん (治療歴なし；一次治療)	筋層浸潤性膀胱がん
急性骨髄性白血病治療剤 <b>ゾスパタ</b>		急性骨髄性白血病 (造血幹細胞移植後の維持療法)		急性骨髄性白血病 (未治療、強力な化学療法適応)
対象疾患：胃がん等 <b>ゾルベツキシマブ</b>		胃腺がんおよび 食道胃接合部腺がん		



\* ピボタル試験を実施中の適応症に限る(2022年10月末時点)。社内での評価・決定、必要に応じ当局との相談後に申請。最初の国・地域(米国・欧州・日本のいずれか)での申請予定  
 VMS: Vasomotor Symptoms 血管運動神経症状(顔のほてり・のぼせ等(ホットフラッシュ))

## Focus Areaアプローチ

アンメットメディカルニーズの高い疾患に対応するために、最先端のバイオロジーと革新的なモダリティ／テクノロジーを組み合わせることで、柔軟かつ効率的に創薬機会を特定



## Primary Focus

Focus Areaアプローチの中で、患者さんにとっての「価値」が期待され、リードおよび後続プロジェクトにおいて明確な研究開発の道筋が示されているもの



遺伝子治療



がん免疫



再生と視力の維持・回復



ミトコンドリア



標的タンパク質分解誘導

# 臨床研究段階プロジェクトの概況

Primary Focus	バイオロジー / モダリティ / テクノロジー *1	FY25末までにPoC見極め時期を迎える予定のPJ数*2
 遺伝子治療	遺伝子置換(AAV)	4
	遺伝子調節(AAV)	
 がん免疫	チェックポイント	12
	人工アジュバントベクター細胞	
	腫瘍溶解性ウイルス(腫瘍内投与)	
	腫瘍溶解性ウイルス(全身投与)	
	二重特異性免疫細胞誘導	
 再生と視力の維持・回復	がん細胞医療(UDC)	3
	細胞補充	
	細胞補充(UDC)	
 ミトコンドリア	遺伝子調節(AAV)	4
	遺伝子調節とミトコンドリア生合成	
	ミトコンドリア ストレス応答	
 標的タンパク質分解誘導	ミトコンドリア・トランスファー	1
	タンパク質分解誘導剤	
合計		24



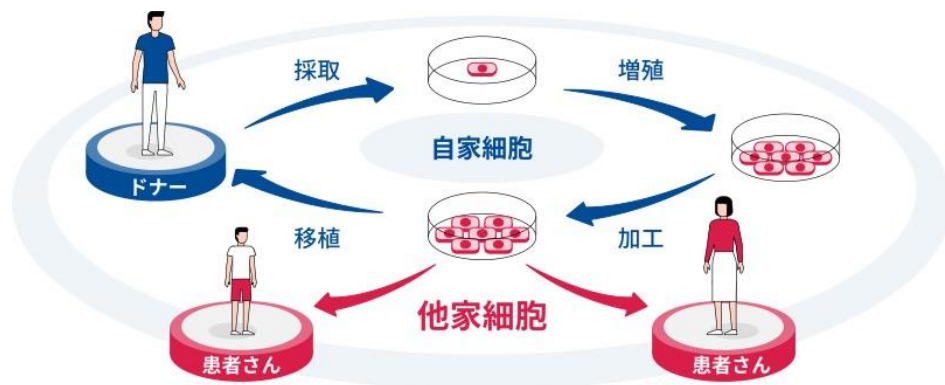
\*1 全てを列挙していない、\*2 成功確率100%の前提で、標準の開発タイムラインに基づき算定(2022年10月末時点)

AAV:アデノ随伴ウイルス、UDC:ユニバーサルドナー細胞、PoC:コンセプト検証(後期開発への進展の是非を判断するための臨床試験データ)

# 「夢の治療」を「現実の治療手段」へ 病因と病態の関連が明確な疾患の根本治療を目指す

複合的な要因に由来するが、疾患により失われる機能が明確な疾患

細胞医療 による、失われた機能の再生



単一の遺伝子の欠損・機能不全が原因の疾患

遺伝子治療 による、欠損した遺伝子の補充、機能回復



Xyphos Biosciences  
(カリフォルニア州  
サウスサンフランシスコ)



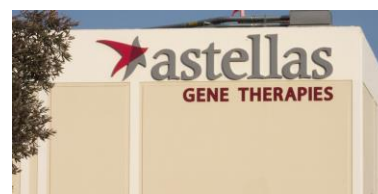
Universal Cells  
(ワシントン州シアトル)



Astellas Institute of  
Regenerative Medicine  
(マサチューセッツ州ウエストボロ)



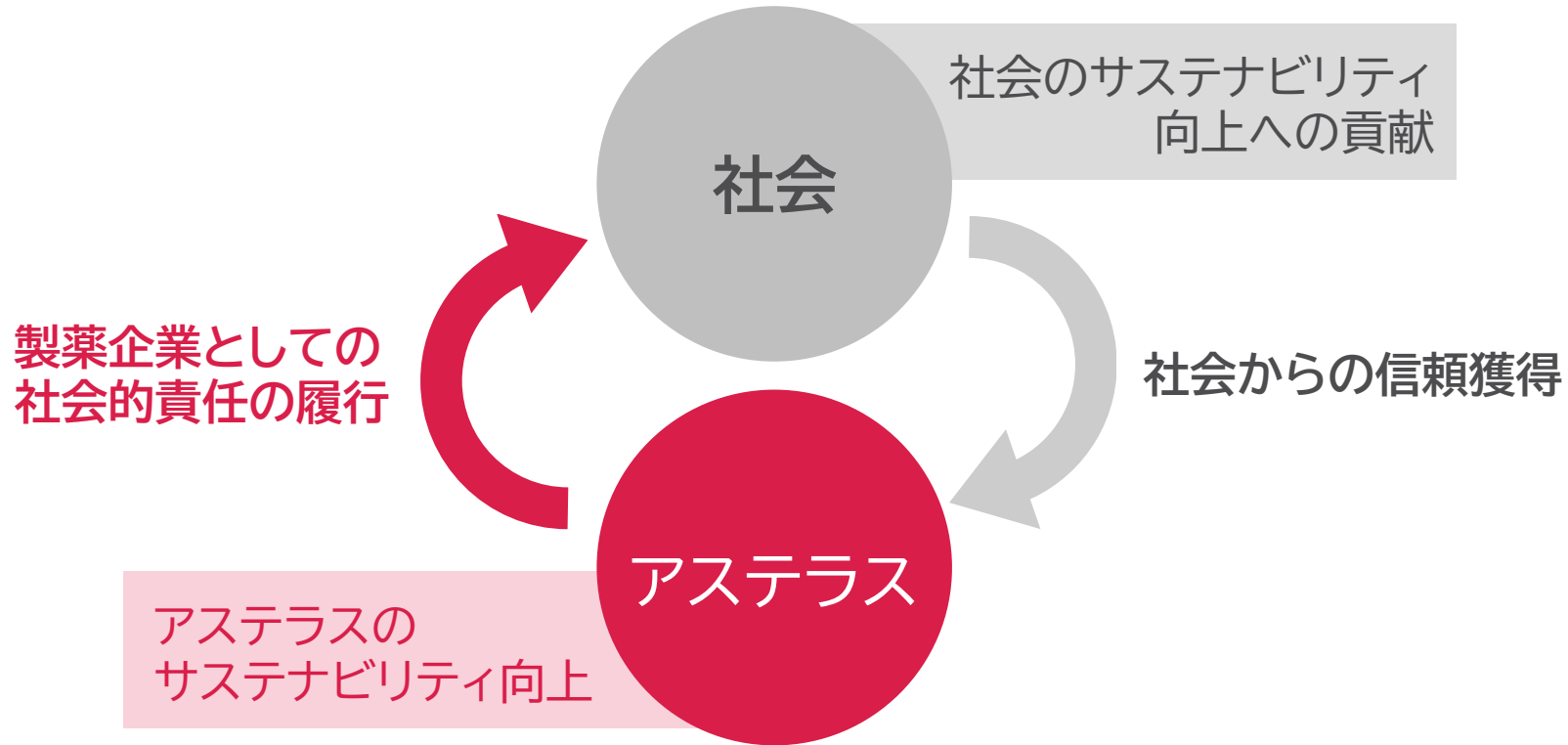
アステラス製薬  
(つくば研究センター、  
つくばバイオ研究センター)



Astellas Gene  
Therapies  
(カリフォルニア州  
サウスサンフランシスコ)



Astellas Gene  
Therapies  
(ノースカロライナ州  
サンフォード)



## アステラスの存在意義

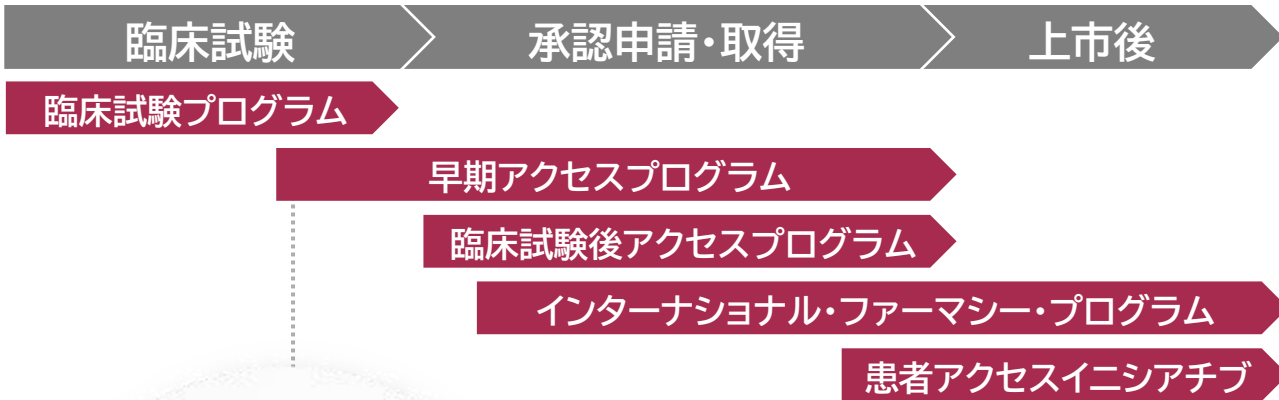
先端・信頼の医薬で、  
世界の人々の健康に貢献する

## アステラスの使命

企業価値の持続的向上

# アステラスのサステナビリティに対する活動例

## 医薬品アクセスの改善



35カ国  
235施設  
900人以上のがん<sup>\*3</sup>患者さん

## アステラスの技術を生かした取り組み

住血吸虫症治療薬プラジカンテル  
小児用製剤の開発への貢献<sup>\*1</sup>



## 環境への取り組み

PTPシートにバイオマス  
プラスチックを採用  
(世界初、一部製品)

ケリー工場(アイルランド)で  
温室効果ガス排出量ほぼゼロ



PTPシートの一部に植物由来プラスチックを使用しています



\*1 GHIT FundおよびThe European & Developing Countries Clinical Trials Partnership(EDCTP)から資金提供あり

\*2 McManus, D.P., Dunne, D.W., Sacko, M. et al. Schistosomiasis. Nat Rev Dis Primers 4, 13 (2018)

\*3 急性骨髄性白血病



# 統合報告書(旧・アニュアルレポート)

持続的な成長に向けて「価値」を生み出し続けていくための  
弊社の取り組みを掲載

アステラスが中長期的に目指す姿、  
現在の財務・非財務の取り組みを分かりやすく紹介しています

<https://www.astellas.com/jp/investors/integrated-report>



## CEOインタビュー



代表取締役社長CEO  
安川健司

## 経営計画2021の進捗



代表取締役副社長 経営戦略担当  
岡村直樹



財務担当  
菊岡稔

## 社外取締役インタビュー



社外取締役(監査等委員)  
渋村晴子

## 価値創造モデル



# 本日のアジェンダ

18

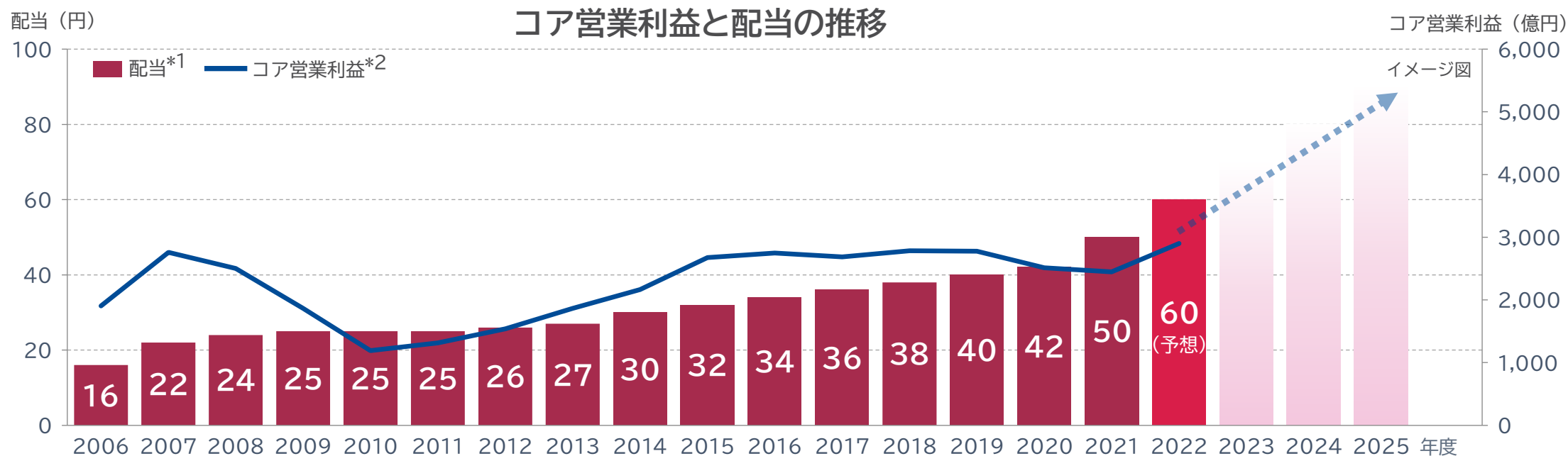
I アステラスについて

II 持続的な成長を目指して 経営計画2021（2021-2025 中期経営計画）

III 株主還元方針

- 成長を実現するための事業投資を最優先
- 利益・資金計画及び実績に基づき、経営計画期間を通じた配当水準の引き上げ
- 余剰資金が生じた際は、自己株式取得を機動的に実施

## 経営計画2021の期間中は、堅調な利益成長予想に基づき、より高い水準の配当を目指す



\*1 2014年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。グラフの2013年度以前の配当実績は、当該株式分割が行われたと仮定して算定

\*2 2012年度(2013年3月期)以前は、日本基準の営業利益

# 株価の推移

株価(高値)(円)



## 経営計画2021の成果目標

2025年度

- 1 XTANDIおよび重点戦略製品  
2025年度に1.2兆円以上
- 2 Focus Areaプロジェクト  
2030年度に5,000億円以上
- 3 コア営業利益率  
2025年度に30%以上

株式時価総額  
**7兆円**  
と評価される企業を目指す



アステラスは、変化する医療の最先端に立ち、

科学の進歩を患者さんの「価値」に変えていくことで

ステークホルダーや社会からの期待に応え続けます。

変化する医療の最先端へ

